

平成28年度 東蒲原郡算数部 活動報告

部長 笠間 朋子

1 研究主題 自分の考えをもち、意欲的に表現する児童の育成

2 研究の概要

第1回：活動計画立案

第2回：研究主題にかかわる実践の情報交換会

第3回：講演「自分の考えをもち、意欲的に表現する児童の育成について」

講師 新潟県立教育センター教育企画班副参事 指導主事 佐藤 栄策様

第4回：授業研究にかかわる指導案検討会

第5回：授業研究会

・授業者 長谷川 由佳 教諭（三川小学校）

・指導者 阿賀町立鹿瀬小学校長 高津 清一様



3 研究の実際

(1) 各校の研究主題にかかわる実践の情報交換会

部員の所属校が類似したテーマで校内研究を進めていた。情報交換では、共通している内容（授業モデル・学びのユニバーサルデザイン）などが中心的な話題になり、充実した情報交換ができた。また、他校の実践を知ることによって自校の研究実践を見直す機会になり、非常に有意義であった。

(2) 講演会

新潟県立教育センター佐藤指導主事様を講師にお迎えし、講演をいただいた。

現在は、児童が授業を通して新しい価値や知識を生み出すことが求められている。そのための指導として、下記の3つの柱からお話をいただいた。

「アクティブラーニングのあり方」では、「どこに城を築くか」のグループ学習を通し、どのような姿が主体的に学んでいる状態（人的化学変化）かを具体的に体得することができた。

「ねらいと課題の設定」では、「子どもにどんな力をつけたいか、何をねらうか」が最重要で、具体的なねらいの設定例を挙げ、ねらいの善し悪しの理由を分かりやすく説明していただいた。普段の授業に生かせるヒントを得ることができた。

「授業で大切にしたいこと」では、「学級の風土づくり」を普段の授業で行ういくつかのポイントを学んだ。「課題提示と指示は短く」「振り返りノートで子どもに自分の成長を気付かせる」など、授業場面での具体的なご指摘をいただいた。各自の授業を振り返り改善点を自覚する充実した研修会となった。

(3) 授業研究会

第4学年算数科 単元名「2けたでわるわり算」

本時のねらいは、「(2位数)÷(2位数)の計算で、仮商修正2回以上の筆算の手順を考えることを通して、筆算の仕方を理解する。」であった。前時で、「見当をつけた商が大きすぎた場合は、商を1小さくする」の学習を生かし、本時は「 $68 \div 16$ 」の筆算はどのようにすればよいか、が課題である。

子どもたちは、補助用具の鉛筆を使いながら、前時とのズレに抵抗を示すことなく課題を解き、ペアでの話し合い・全体検討をスムーズに進めていた。

協議会では、以下の点について、話し合われた。

① 前時との計算の仕方の違い、「ズレ」を意識させる手立て（修正2回の確認・確かめ算での確認）等があるとよかった。

② ペア活動・全体検討での説明の仕方は、聞いている人を意識し分かりやすい発表で、普段からの指導が生きていた。

4 成果と課題

上に挙げた3つの柱で研究を進めたことで、部員が部会での成果を所属校に持ち帰り、児童への実際の指導に生かすことができた。また、阿賀町は学校により指導形態（複式、TTなど）が異なる。今後は、その点も考慮し、部会で取り上げる内容をさらに精選し、より意義のある研修にしていく必要がある。